2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） **4-4-1** 学習成果の測定（評価）方法の開発は、専門的な研究者が時間をかけて行うべきものだと考えられる。委員会や分科会などで検討していても埒があかないのではないか。大学に専門の開発機関をつくって検討すべきである。

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	東松山キャンパス運営委員会
評価基準４	教育内容・方法・成果
中項目　4-4	成果　　【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	3 年ごとに東松山キャンパス運営委員会が実施する「１年生の生活と学習に関するアンケート」によって、全体的な理解度は確認しているが、全学共通科目等の科目ごとの理解度は確認していない（B4-4-4）。3 年ごとにアンケートを行うのは、学生の理解度、学習傾向は年度ごとの変化はそれほど大きくないと判断するからである。
4-4-1	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に〇・×で記入し、〇の場合はその内容と結果を記述してください。** 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用について【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-4-1	

【改善すべき事項】

4-4-1	全学共通科目や外国語科目において、学習成果を測定するための評価指標の開発を進める。

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価 2014	評価 2015	評価 2016	評価 2017	評価 2018
中期目標（2014～2018）	4-4-1　学習成果を測定するための評価指標を開発し、運用する。	・評価指標およびその運用が東松山キャンパス運営委員会に報告されている。 →			C	A	
16 年度目標	4-4-1　全学共通科目や外国語科目の教育目標、教育課程の編成・実施方針を見直して、より具体的なものにした上で、各科目において身につけるべき能力や知識を確定し、それぞれに見合った評価指標を検討する。	・各分科会において議論が開始されている。			B		
17 年度目標	4-4-1 全学的な検討と合わせて、学習成果の可視化についての方策を確立する。（対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月）	・各分科会において学習成果の可視化についての議論がされる。				A	

Ⅳ　評価専門委員会所見

全体への所見 この評価シートを見る限りでは、この委員会が如何なる役割を果たしているのか、見えてきません。１・２年生が集中するキャン

パスならではの問題に具体的に何を取り組んでいるのか、明記して下さい。
4‐4‐1【現状】
　３年ごとにアンケートを行う理由として、学習傾向について年度ごとの変化はそれほど大きくないとしていますが、その根拠を示して下さい。また何故３年ごとであって、２年ごとや５年ごとでないのか分かりません。本来であれば、１年生が２年生になった時に何らかの対応をすべく、毎年実施すべきではないでしょうか。
【目標】
16 年度目標で、評価指標を検討することについて、「各分科会において議論が開始されている」のであれば、どの分科会で具体的に何が議論されているのかを示して下さい。そうでないと、B 評価をされている根拠が分かりません。

Ⅴ　所見への対応

4−4−1　学習成果の検証については、全学的課題としても進められており、本委員会はその中で特に東松山の 1，２年次の教育についての学習成果の検証のあり方について取り組んでいくことが重要と考えている。全学的な取り組みとして行うことが重要と考えており、全学的な動向を踏まえて適時適切に意見を出していきたい。
　学生アンケートについては、どの程度の期間で行うかについては、その実施結果の検討、改善の実施、その成果の検証ということからこの程度の見直し期間を想定して実施されているが、全学的な検証がどのように行われるのかの動向も踏まえ、その実施時期を検討したい。

Ⅵ　次年度への課題

全学的に評価指標についての試行的な取り組みが行われており、その状況を受けて全学共通科目等の評価指標についても整備を図る。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-4-1　　大東文化大学学則　≪既出≫A1-1
B4-4-4　　１年生の生活と学習状況に関するアンケート(2015 年度)
B4-4-29　大学データ集　≪既出≫B1-22

〔追加資料〕